

12/15 12:25

治療態勢を拡充したい

コロナの後遺症

新型コロナウイルス感染症の後遺症に苦しむ人々がいる。無症状や軽症で多くの場合は、さまざまな後遺症が報告されています。専門の外来診療や相談窓口などの治療に加え、就労を支える感覚の搽拭も求めたい。

元感染者を対象とした国内医療研究センターの調査では、味や臭いを感じにくくなる感覚がある。また、頭痛、周囲の記憶力障害などの後遺症が報告されています。男性より女性の方がだるさが強くなるやすい、味覚や嗅覚障害は性別よりも年代が多い。

四人に一人が発症または診断から半年後の何らかの症状があると回答した。一年後に症状が残っている人の約8%だった。

強いためでもなく、筋力低下などがあれば体を適度に動かせば改善傾向に向かうと困難となる。日常生活にも支障が出る。

感染が難症で悩んでいた頃がせめの可能性を考えれば、「コクサン接種」が予防は重要な対策だ。若い世代でもある、希望者は三回目の接種を迅速に実施してほしい。

後遺症の症状は多岐にわたり、厚生労働省は医師向けに後遺症の診療・検断手順を症状別に説明した「診療の手引き」を公表した。医療機関は手引を活用し、後遺症の治療を取り組んでほしい。

後遺症に対する人並みの受診率は低いのが現状である。そのため、政府や自治体は専門的診療する地域の医療機関を増やすとともに相談窓口を設け、医療と生活に必要な支援体制を整備すべきだ。

後遺症は原因不明の部分が多く、治療は対症療法やリハビリを中心とすべきだ。本格的な治療法を確立すれば、政府の財政支援も得て原因説明を廠くべきだ。

後遺症の多くは時間がたつほど緩むが、服用された働く人が職場に復帰し、働き続けることは職場の理解も欠かせない。後遺症がある場合、症状に配慮した働き方も必要となる。職場や医療機関など企業も積極的に支援してほしい。

休職中の職場の健康管理取り扱い手当金が支給される。休職中の感染症に対する対応策が感染拡大防止の要である。そこで、まずは手洗い・消毒の徹底をはじめ感染拡大防止につながるため、後遺症回復も積極的な取り組みを求めていい。